

株式会社サークル・ウィン
NEWSLETTER

今！経営者が押さえておきたい

人手不足解消のための一手とは？

中小企業省力化投資補助金／生成AI活用事例とリスク

【補助金】 人手不足への対応を後押し！生産・業務プロセス等の効率化を支援。

中小企業省力化投資補助金（一般型）の申請が3/19スタート！

【生成AI】 生成AIで人手不足を乗り越える？中小企業向け活用事例と知っておきたいリスク

補助金

中小企業省力化投資補助金(一般型)3/19申請開始

中小企業省力化投資補助金(一般型)とは？

人手不足に悩む中小企業へ、省力化に繋がるIoT・ロボット・DXなどの設備投資/システム導入を支援。
R6年6月開始のカタログ型に比べて自由度が高く、補助上限額や予算規模(3,000億円)も大きい。

一般型とカタログ型の違い

対象

補助金額

一般型	個別の事業に合わせた設備投資/システム導入	上限最大1億円
カタログ注文型	カタログ掲載の汎用製品から選択	上限最大1,000万円

※また、ものづくり補助金のような革新性は求められず、既存事業の省力化を目標とした計画であればよい

事業計画の要件

省力化効果	投資回収期間	付加価値額の増加	設備導入
業務量が削減される割合を算出する	根拠資料と共に提出	3～5年以内に設備投資前と比較して増加	オーダーメイド等の設備/システムを導入※

※導入設備がカタログ型に登録されているカテゴリに該当する製品の場合は、審査で考慮される

申請要件

基本要件	①労働生産性の年平均成長率4.0%以上増加 ②1人あたり給与支給総額の年平均成長率が、最低賃金の直近5年間年平均成長率以上または給与支給総額の年平均成長率2.0%以上増加 ③事業所内最低賃金が都道府県最低賃金+30円以上 ④次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画公表(従業員21名以上の場合)等
補助上限	750～8,000万円【大幅賃上げ特例】250～2,000万円上乗せ
補助率	1/2(小規模・再生2/3)【最低賃金引上げ特例】2/3 ※いずれも、1,500万円を超える部分は1/3
対象経費	機械装置・システム構築費(必須)、技術導入費、専門家経費、運搬費、クラウドサービス利用費、外注費、知的財産権等関連経費
その他	・収益納付なし ・毎年効果報告を提出 ・基本要件が未達の場合返還義務あり

スケジュール



申請開始：3月19日（水）10時

公募締切日：3月31日（月）17：00

2023年頃から爆発的に普及し始めた「生成AI」。ChatGPTが有名ですが、人手不足の中、限られたリソースで事業推進する中小企業にとって、業務効率化を担う注目の存在といえるかもしれません。

「生成AI」とは？

人工知能の技術を活用して、文章や画像、音楽、動画などの新しいコンテンツを自動的に作り出すシステム。大量のデータをAIが学習し、その知識を活用して要件にあうコンテンツを生成する

メリット

使用に特別な知識・スキルが必要なく、低コストで導入できる

中小企業が活用しやすい

活用事例

ChatGPT

文章作成



必要な要件や指示を与えることで、適切な言い回しや表現を使った文章を自動作成してくれる

利用シーン ビジネスメールや発信文書、商品説明やWebサイトの記事、SNS投稿、リリースなど

Canvaなど画像作成系AIツール

デザイン



イメージ案や素案の作成、バリエーション作成など、プロに依頼するコストをかけずに簡単に作成できる

利用シーン ロゴやサイン、SNS投稿画像、バナーやアイキャッチ画像、商品のパッケージ、説明図や概念図など

リコメンドAIなど

マーケティング



MA(マーケティング・オートメーション)にAIを活用することで購入情報や行動分析から適切な提案/リコメンドの生成、販促施策の立案なども行うことができる

利用シーン ECサイトの自動リコメンド、販促メール配信、販促ターゲット設定、コピーライティング、SEO、など

RPAツール

ルーチン業務



ソフトウェアに特定業務の手順を記憶させ再現させるRPA(Robotic Process Automation)ツールが各種ある

利用シーン 会計伝票の処理、入金照合、勤怠データ管理、CRM入力、競合データの収集、在庫管理、アラート通知など

スライド作成AIツール

資料作成



数字・テキストを問わず膨大なデータを与え、見やすいグラフや表を自動で作成し資料にまとめてくれる

利用シーン 営業報告、進捗管理レポート、会議の議事録、各種報告書や提案書など

チャットボットなど

顧客対応



チャットボットが必須情報のヒアリングなど初期対応を自動化することで、レスポンスのスピード向上・対応キャパ増加を見込むことができる

利用シーン 問い合わせ窓口の初期対応、問い合わせ内容の切り分け、簡単なトラブルシューティングなど

コード生成AIツール

プログラミング



専門業者に依頼するほどでもない簡単なプログラムに関して、要件に合ったサンプルコードなどを提案してくれる

利用シーン webサイトの更新やコンテンツ追加、エクセルのマクロ組みや関数など

AI営業支援ツール

営業支援



商談の記録や顧客情報をデータ化しAIが分析することで、成約率向上や効率化を図ることができる

利用シーン トップ営業の型を抽出してロープレに活用、最適なリマインドタイミング、見込み顧客やターゲットを抽出、など

リスクと注意点

誤情報とコンプライアンス

稀に生成AIが誤情報を生成するケースがあること、また学習データに偏見や不適切な情報が含まれていた場合に生成されたコンテンツの倫理性など

➡必ず最終的に人が目を通しチェックする

情報漏洩リスク

企業の機密情報や個人情報が含まれたデータを利用する際は、これらの情報が不適切に処理されたり学習データとして取り込まれるリスクがある

➡アクセス制御や暗号化等、厳密なセキュリティ